

# 学ぼう明日へ！ サポート通信 20

## 運動で学力アップ

文部科学省が行っている全国学力・学習状況調査において北海道の子どもたちは、基礎的な学習内容が十分に身に付いていない、テレビやゲームの時間が多い、1日の家庭学習の時間が少ないといった課題があることが分かりました。また、全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果を見ると全国平均に比べて低い状況にあり、脚力や持久力に関する運動が苦手という状況が見られました。



体力は、健康な生活を過ごす上で必要な要素であり、ま

た物事に取り組む意欲や気力といった精神面の充実にも深く関わっています。人間の健全な発達と成長を支え、より豊かで充実した生活を送る上で、大変重要なものとなります。

このことから子どもの時期に活発な身体活動を行うことは、発達と成長に必要な体力を高めることはもとより、運動・スポーツに親しむ身体的能力の基礎を養い、病気から身体を守る体力を強化し、より健康な状態を作っていくことにつながります。

また、運動をすることで脳に酸素がたくさん送られ、私たちの集中力をつかさどる脳の部分の活性が適度に高まって集中しやすい状態を作るといわれています。勉強に集中できれば、学習能力というのとても高まります。つまり、しっかりと集中できる状態を作るといえる意味でも

運動は学力向上に効果的といえます。事実、学力学習状況調査の結果が良い県は、体力・運動能力・運動習慣等調査の結果もよいという状況があり、「運動」と「学力」には、密接な関係があることが分かります。

これらのことから、運動には、さまざまな効果がありますので、少年団や運動部活動等で行っているスポーツはもちろんですが、登下校における「歩く」こと、放課後や休日の「外遊び」、家庭での「手伝い」など身体を使った活動にも目を向けましょう。毎日体を動かす時間を確保することで、運動習慣の定着を図ることができます。



ほっかいどう  
**学力・体力向上運動**  
子どもたちが夢や目標を実現できるよう、  
道民みんなが支えていきましょう

北海道教育委員会では、本道の子どもたち一人ひとりに、社会で自立して生きていく上で必要な学力や体力、望ましい生活習慣や規範意識を確実に身に付けさせることができるよう、学校、保護者、地域住民及び行政が、課題や危機意識を共有し、学力向上に向けた取組を一層進めることができるよう「ほっかいどう『学力・体力向上運動』」を展開しています。次のサイトで学力向上に関するさまざまな情報を提供しています。保護者の皆様もご覧いただきお子様の学習状況について、家族で話をする機会としてはいかがでしょうか。

[http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/hogosya\\_page.htm](http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/hogosya_page.htm)

または「学力向上のページ」で検索してください。

うちの子 よその子 みんなの子  
みんなで育てる新十津川っ子



# みんなで 育てよう

6月9日(日)に開催された青少年健全育成のつどいから講演の要旨をご紹介します。

## 青少年健全育成町民会議

### 「現代社会と子ども育ち

#### 「親・おとなの子育て役割を考える」

北星学園大学准教授 河野和枝氏講演要旨

皆さんこんにちは。私は10年前に新十津川町で社会教育の現状を調査するために、新十津川町の皆さんに大変お世話になりました。あらためてお礼を申し上げます。

さて、子育てがかつてないほど大きな社会問題としてクローズアップされています。「子育て」という言葉が使われだしたのは80年代からで、時を同じくして、共通一次の開始など「受験競争の激化」もスタートしています。併せて少子化も急激に進行してきています。

少子化は、子育ての大変さと併せて、「産みたいのに産めない」という社会問題も内包し、社会全体で解決を図らなければならない問題です。

少子化の弊害として、人と人のつながりが狭くなり、人を理解することが狭い範囲で行われることで、その力が弱まり、ひいては人を愛する力が弱まることにつながっています。

また、母親の孤立が目立つ

のも現代社会の特徴です。子育て中の母親が家とスーパーと公園(魔のトライアングル)という狭い範囲の生活空間から抜け出せず閉塞感に陥ることが目立っています。その

のはけ口が育児中の子どもなど、より弱い者へ向かってしまいます。その結果痛ましい事件として新聞をにぎわすことになってしまうこともあり

ます。大阪の2児放置死事件は発生前に多くの通告があったにも関わらず起きてしまいました。た。「通告すれば子どもは救われる」とはならないことを私たちに突きつけています。

一方で「モンスターペアレンツ」「ヘリコプターペアレンツ」(常に子どもの上にホバーリングしていて、何かあるとすぐに下りてきて口を出す。大学生に多い)に代表されるような過干渉の親も問題です。

さまざま要因で「若者が

一人前になれない社会」になっ

ていることが指摘されています。人間関係の欠如から自信が持てない若者が急増し、学生たちの中にも一見元気そう

な若者であっても、いじめに遭っていた、リストカットしていたなど、危機を内包している子も珍しくありません。非正規労働者の増大、生涯未婚者、社会的ひきこもりなど若者を取り巻く深刻な状況は、何かの拍子に暴発する要因を常に秘めていると考えられます。

若者を対象にした国際調査によると、日本では「孤立していると感じる」「家族以外の人と交流がない」と考えている若者の割合が他の国と比較して大変高くなっており、他人との関わりがなく孤立感を感じている若者が非常に多いということが分かります。こうした状況を解決するためには「子ども育ち」を援助する他者の存在(地域の力)が極めて重要になります。親の子育て力がなくなるとい

うよりも、地域の子育て力がなくなると考えていると考えられます。

んなの子、みんなで育てる新十津川っ子」という概念は、地域の果たすべき役割として大変重要なものです。私が10年前に社会教育の調査で新十津川町を選んだのは、「新十津川物語」で地域づくりの最初の取組みが「学校づくり」であったということを知ったことが大きな要因でした。新十津川町にはこんな素晴らしい歴史があります。ぜひこれからも「うちの子、よその子、みんなの子」を大切にしたいと考えます。

最後に、ユーモラスで感性豊かな子もたくさんいるというを紹介したいと思いたす。高校生の一行詩を集めた著書「父よ母よ」の中に「父よ、言いたいことがあったらはっきり言え。母よ、言いたいことをそのまま言うな。」とありました。こういう感性の豊かさが未来をつくることにつながると考えます。

